

第4章 上越線（沼田～水上）

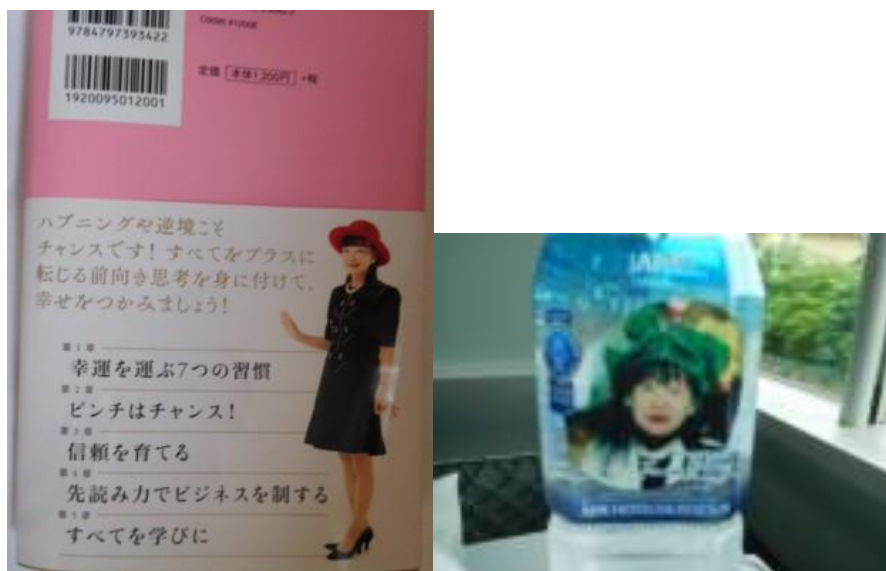
第1節 概要

秋田・山形・群馬の旅の第10弾は、7月4日（土）雨の中、特急”いなほ号”を活用し、鶴岡から新潟そして長岡を経由し、水上にある天野屋ホテルまでの行程である。



※アパホテル

この日は、鶴岡発のいなほ号が9時23分（酒田駅始発）などで、ゆっくりホテルで朝食を済ませ臨む。チェックアウトまで時間があつたので、部屋備え付けにあるアパホテル社長元谷芙美子氏が執筆した”強運”の著書に目を通す。その中で”旅は勉強になる”との頁があり共感を得る。



※アパホテル社長の著書



※鶴岡駅



※鶴岡駅

コロナの影響もあり、少なくとも鶴岡駅までは、3号車（指定席）は貸切状態であった。これまでの疲れもあり、うとうとして車窓からの風景は雨空の影響もあり余り観察できず。新潟駅で1時間位の待ち合わせがある。ホームは新潟駅の端にある8番線であったので、乗り継ぎのため200m位歩きを余儀なくされる。ホームに面して駅舎の改築工事現場があった。多くの高校生の姿があった。新潟から長岡までの区間は、数年前信越本線で踏破したので、車窓からの駅舎や風景を通じ、懐かしい思い出が次々登場して来る。長岡からの上越線に関しては、初めて乗る区間であったので車窓からの風景は新鮮であった。上越新幹線を通じ、浦佐駅や越後湯沢駅は学習済みであるが、いつか上越線の未踏破区間である長岡から渋川まではクリアしたものだ。



鶴岡駅、いなほ号



※新潟駅

本日は、これまでの”歩き鉄”（東能代～あつみ温泉）を癒す意味でも意義ある一日であった。また、近い将来歩きたい、羽越本線（あつみ温泉～新発田）や上越線（長岡～水上）を下見する意味でも有意義な”乗り鉄”の旅であった。更に、各駅停車に乗り継いで「どこまでも続く日本の鉄道の旅」を楽しむ意味でも最高であった。



※長岡駅、上越線ダイヤ、浦佐駅

今回のように、歩き鉄と乗り鉄の二刀流プランを企画したのは初めてであるが、気分転換・下見・慰労などからタイムリーヒットを打ったような心境で一杯。下見を通じ、上越線においては土樽駅から土合駅の区間（営業キロ 10.8 km）は、谷川岳が前方を大きく立ち塞がり困難であると判明した。水上駅の駅員さんに聞いたところ、トンネルは歩きができないため、この区間を踏破するのであれば、水上駅から越後湯沢まで大きく山道（国道 17 号線・353 号線）を迂回して進むしかないとのことであった。営業キロが 35.1 km なので、山道であれば 50 km～60 km 位になるであろう。それ故、推敲に推敲を重ねた企画でなければ、危険も伴うし踏破は難しいであろう。どこに宿をとるかが、大きなネックになるであろう。地図を見ると、三国峠、苗場、火打峠、仁居峠、法師温泉、貝掛温泉などがあった。しかし、難しい区間故に、時間・財力・体力などにも相談し、創意工夫をしていずれ機会をみて是非挑戦したいものだ。



※水上駅



※水上駅

水上駅には 15 時 46 分到着。水上温泉街を歩き、天野屋ホテル（赤城）には 16 時過ぎ到着。古い温泉宿であった。一風呂浴び、18 時より地酒谷川岳を飲みながら夕食を頂き、本日の幕となる。



※天野屋ホテルへの路



天野屋ホテル



※谷川岳で本日の疲れを癒す

第2節 上越線（水上～沼田）

秋田・山形・群馬の旅の締めは、旅をはじめて11日目の7月5日（日）曇り晴れの中、上越線の水上駅から沼田駅までの営業キロ17.7kmに挑戦する。運よく、昨日と好対照でいいウォーキング日和であった。



※宿からの風景、朝食



※天野屋ホテル、ホテル界限

今回の旅の11日間を振り返り、天や神のご加護もあり、晴れ間は少なかったが、歩きを中止するような豪雨には逢わず、ラッキーであった。すなわち、傘を全く使わなかった日は①6月27日(土)の八郎潟～秋田 ②6月28日(日)の仁賀保～羽後亀田 ③7月3日(金)のあつみ温泉～鶴岡 ④7月5日(日)の水上～沼田と4日間。一方、終日雨はゼロで、途中で雨に遭ったり、止んだりした日が7日間あった。総合的に判断し、日照時間は長いし、曇り空で暑くなし寒くなしの恵まれた11日間であった。

天気予報では午後から小雨も在り得るとのことであったので、7時半の食事を少し早め7時過ぎにして頂く。8時ホテルをチェックアウトし、水上駅からではなく、ホテルから沼田駅までを目指す。このようなケースは、3月歩いた関西本線でも実施済みである。本日の駅舎立ち寄り時刻は、次の通り。

水上(天野ホテル、8:00)～上牧(9:27)～後閑(ごかん、11:31)～沼田(13:02)



※丸須、2度鉄道下を潜る

ホテルを8時チェックアウトし、上牧駅を目指す。8時13分、”丸須”という土産屋でお袋用に温泉萬壽を購入する。9時6分、鉄道下を潜り、鉄道の右側となる。暫く歩くと、再度鉄道が頭上に現れ、鉄道の左側を歩く。気が付かないうちに右側となり、再度鉄道の右側を歩く。9時27分、上牧駅に到着する。10時12分、ホテル飛びかうおらが里標識前を通過。11時3分、ポツリ水滴を感じ、リュックに雨具をかける。しかし、暫く歩くと薄日なり、10分歩いた先で雨具をしまう。



上牧上バス停



※ホテル飛びかうおらが里標識、後閑駅への路



※後閑駅

沼田まで6 km地点に到達する。まもなく、後閑駅だと思い、急な坂を上り、鉄道沿いに出る。300m 位歩いた先に後閑駅（11 時 31 分）があった。この駅は幹線道路に面していた。12 時 10 分、薄日から晴れとなる。12 時 45 分、146 歩ある薄根橋を渡る。13 時 2 分、沼田駅に到着する。駅前には”奉仕の道”と記した天狗があった。また、駅舎にも2 種類の天狗の像や沼田八景の絵画があった。



※蓮根橋、沼田駅の西側



※沼田駅への通路、沼田駅



※奉仕の道、時刻表、沼田八景

本日の歩きは、天気にも恵まれた他、下り坂だったし、距離も短ったし、鉄道に沿った幹線道路があり、花道を飾るのに相応しいウォーキングであった。悪天候やコロナ状況などの中、色々心配したが、無事当初の予定を100%消化でき、天や神に加え、地元の人に感謝また感謝。また、旅の途中でSNSやSMSを発信したところ、沢山の方から心温まるエールを頂き、感謝と感激で一杯の旅であった。有言実行は、”人生を歩む上で大切”と強く感じる旅でもあった。また、”推敲に推敲を重ねた旅行プラン企画書(安全性を見込んだややハードなプラン)の大切さ”を強く感じた旅でもあった。今回の旅は、2000年5月時点では想定もしない、「日本の鉄道の4割踏破」が樹立でき大いに感激・感動した旅でもあった。また、偶然にも1万1千1百キロと綺麗な数値で終わることができ感無量の旅となった。近々の目標である”全国鉄道つたい歩き”に関し、秋田県を終えたので、残るは鳥取・島根・長崎の3県となった。



沼田駅の天狗

当初の予定より、1時間早い電車で、旅の成果を土産に家路に向かう。（秋田・山形・群馬の旅完）



※沼田駅、大宮駅